

令和6年度 氷見市教育総合センターだより 第3報

教育セミナー

8月2日（金）

テーマ 子どもの事実から「子どもが主語の学校づくり」を
みんなで問い直しませんか

講師 大阪市立大空小学校 初代校長 木村 泰子 先生



「みなさん、一回大きな口を開けて笑ってみませんか」と、笑顔の木村先生の語りに引き込まれるように、先生方の笑い声から始まったセミナーでした。木村先生は、「この講演会から何を学ぶか、求めるかは、先生方自身の中にある」と、研修観の転換について話された後、映画「みんなの学校」ダイジェスト版の動画を視聴しました。不登校や発達障害だとレッテルを貼られた子供たちを含め、大空小学校全ての子供たちと、教師、保護者、地域の方々がどのように関わってこられたのか、何度もやり直しをして取り組んでこ

れた事実を基に、熱く語られました。木村先生の問いかけから、自分自身の有り様、子供の姿を振り返り、「子どもが主語の学校づくり」について考える時間となりました。

<参加者の声>

- 2学期は、問題行動をしたAに「大丈夫？」と声をかけること、「今誰が一番困っているか」「先生の話は10分」など、これまでの概念から少し離れ、別の視点から自分の言動を変えてみたい。
- 木村先生のお話は、私たちへの「問いかけ」が中心だった。きっと、子供たちへも「問いかけ」ることを通して、考えるきっかけを与えておられるのだろうと思った。
- 「学びは人を変えるのではなく、自分を変えること」を肝に銘じて、今後も自分に何ができるかを考え、行動し、失敗しながら、子供と一緒にやり直せる教師でありたいと強く思った。
- 「働き方改革は時短でない、教師であることが楽しいと思えること、何かあったときにひとりぼっちにならないこと」という言葉を肝に銘じて実践していきたい。

生徒指導研修会

8月7日（水）

演 題 児童生徒支援に向けた保護者との関係づくり

講 師 信州大学学術研究院 教育学系 教授 上村 恵津子 先生

今回の生徒指導研修会では、共に子供と関わり、その実態をよく知る教師と保護者が、互いに相手の価値観や背景を理解・尊重し合う中で、よりよい関係を築いていくプロセス等を学ぶことができました。講師の上村先生は、保護者等との合意形成が「信頼レベルの向上」に重きを置くようになった経緯、不協和を極力減らす動機づけ面接や保護者の思いや意見を一面的に聴くだけでなく、そのよう



に考えるようになった理由・由来まで踏み込んで聴くことの大切さも、実例を交えながら分かりやすく話してくださいました。

上村先生は「ワールド・カフェ方式」を取り入れられ、一方的に話を聞くだけでなく、参加した先生方が実体験を振り返って互いに伝え合ったり、意見交換したりする時間も大切にされていました。先生方の活発なやり取りに、上村先生も感心しておられました。



<参加者の声>

- 保護者との関係づくりは難しいところもあるが、保護者と教師は異なる役割、異なる視点をもっているの、ズレがあって当然だと教えていただいた。今後はそのズレを大切にしながら、しっかりと保護者と向き合っていきたい。
- 普段の保護者との関わりにおいては、できれば対立は避けたいものであるが、面談においては、意見の相違があっても、その背景等を理解しようと、とことん聴くことが、より深い信頼関係の構築につながるということが分かった。

【南部中学校】1年美術科「色の世界を楽しもう」授業者:鹿渡 陸斗 教諭

○ねらい

- ・色によって見る人が受ける印象が異なることを理解し、色をグループ分けすることができる。One Note を活用しながら、自分の考えを分かりやすく伝える方法を考えることができる。

○学習の様子

- ・導入で色から受けるイメージを広げた後で、配色カードから3枚程度を選んで仲間分けする活動を行った。選んだカードを撮影し、One Note を活用して考えの共有を図った。
- ・個人での仲間分けしたものを基にグループで意見交換を行い、互いの色の捉え方の違いについて改めて確認した。



<タブレットを活用しての話し合い>

○協議会 (Teams の Whiteboard を使い、グループごとに付箋メモをまとめながらの協議)

- ・One Note のカメラから直接写真を挿入できる機能が簡単で取り組みやすく、生徒は試行錯誤しながら、様々な組み合わせを考えることができた。
- ・「自分の作品づくりにつなげる」という目的を最初に意識させることが大切。導入では、イメージを提示して配色カードで色を決める方が目的に合っているのではないか。

○指導助言

- ・身近な形から、色について楽しくイメージできるようにした導入は、美術科を苦手と感じている生徒においても活動意欲を高めるものであった。
- ・One Note は写真を取り込む作業が簡単でよい。教師が活用の意図を明確にもち、個人での活動時間を十分保障したことで、グループでの話し合いや教師の説明にも生かされていた。
- ・ICTの活用だけでなく、色への関心を高める配色カードが一人一人に用意されていたことや、色の性質について教師がきちんと教えていたところもよかった。

道徳セミナー

8月19日(月)

テーマ 主体的、対話的で深い学びを実現する道徳科の授業づくり

講師 畿央大学 教育学部 現代教育学科 教授 島 恒生 先生

子供たちが主体的・対話的に学び、「考え、議論する道徳」の授業を展開することによって学びを深めるにはどうすればよいのかについて、「道徳科」の実践に向けた二つの課題を基に、講演を聞きました。【課題1】分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業。【課題2】登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導。これらから、教師中心の伝達型指導からの脱却が大切だと分かりました。

講演では、4人グループで相談したり、中心発問を考えたりする機会が多くあり、真剣に話し合う先生方の姿が印象的でした。

【課題1】については、目に見えない心の内面(道徳性)について考えられる発問を工夫するとともに、学びの発達の段階を考慮した中心発問を考えること、【課題2】については、授業の最初にねらいにつながる目当て(問い)を提示することが、有効な手立てであるということを教えていただきました。

島先生は、「道徳科は天井を見る時間。子供たちが天井を見たら道徳科」とおっしゃっていました。本セミナーでの学びを生かし、「子供たちが一生懸命考えなくなる、深い学びのある」授業を目指して、授業改善を進めてくださることを願っています。



<グループで中心発問を考える>

<参加者の声>

○道徳性とは、心の深いところから見るのだということが大変勉強になりました。2学期からは、道徳的価値レベルまで子供たちが学べるよう、発問や板書を考えたいです。

○ねらいに沿って授業を組み立てるとということ等、基本に戻って学ぶことができました。生徒と共に楽しく、「よく考えたね」と言える授業を行いたいと思いました。

「ENGLISHセミナー2024」

7月26日（金）



<3択クイズ>

市内小学校・義務教育学校の31名の5、6年生が、英語を用いて、ふるさと氷見を紹介する「ENGLISHセミナー2024」に集いました。

第一部の「ALT交流タイム」では、はじめに、ALTが考えたアメリカと日本の違いについて、英語で出題された「3択クイズ」に答え、文化の違いを楽しみながら学びました。次に、アイスブレイキングとして「ゾンビゲーム」を行いました。また、4チームに分かれ、出されたテーマに応じて英単語で答える「英単語レース」を行い、参加者相互の交流を深めました。第二部の「プレゼンテーション」では、内容が伝わる写真を用いて、「ALTにおすすめしたい氷見、日本の文化等」を英語で紹介しました。発表者は、はっきりと大きな声で話したり、ジェスチャーやダンス、獅子舞等を交えたりするなど、豊かな表現力で発表することができました。



<プレゼンテーション>

ふるさと教育研修会

8月6日（火）

内 容 氷見市立博物館、柳田布尾山古墳、ひみラボ水族館等

講 師 氷見市立博物館：大野主任学芸員、広瀬主査 文化振興課：西尾主査等

本研修会は、郷土に対する理解を深めるとともに、教材としての活用方法を探ることを目的として毎年実施しているものです。今回は、しおりを作成し、事前に配布して郷土学習資料「ふるさと氷見」の活用を目指しました。

市立博物館や柳田布尾山古墳では、氷見の歴史に浸りました。古墳に登り、見渡す青い海や氷見の街並みにしばし見とれ、爽風を感じながら、はるか古墳時代に思いを馳せました。ひみラボ水族館では、イタセンパラ保護活動について学ぶとともに、様々な生き物を興味深く見学しました。参加者は、体験を通して氷見のよさを味わっていました。



■氷見クイズ - 「研修のしおり」から抜粋- ■

答えは、冊子「ふるさと氷見」を！

○氷見市の花と樹木は？ ○「ひみ」のいわれは？ ○氷見市の三大祭りは？ ○みりん干しの別名は？

若手教員研修会

小学校・義務(前) 6月7日(金) 中学校・義務(後) 6月25日(火)

テーマ 「若手教員が交流を通して学び合い、日々の実践につなげる」

講 師 海峰小学校 校長 川淵 公昭 先生 十三中学校 校長 狩野 美智代 先生

指導力の向上を目指し、児童生徒理解や学習指導方法等について、若手教員が学び合う場となりました。グループで日々の取組や悩みを話し合う中で、多くの笑顔やうなずきがみられました。

若手教員研修会を通して、教員同士が苦労や悩みを共有したり、励まし合ったりすることのできるネットワークが構築されていくことを願っています。



<参加者の声>

○年次の近い先生方と悩みを共有し、皆悩んでいることが分かって気持ちが楽になりました。

○挑戦することが大事だと思いました。失敗を恐れず、挑戦していきたいです。

○本音で語り合うことができたので、学ぶことがたくさんありました。このような機会やつながりを大切にしていきたいです。

～～ 7月で勤務を終えた2名のALTからのメッセージ ～～

Himi Memories

Danielle Campbell Alyssa

I'll never forget how nervous I was to start teaching elementary school, and now I'll never forget how hard it is to leave my students. The kids in Himi are so energetic and happy, and there were so many times they made me laugh so hard I nearly fell over. I'll always cherish the memories I made with my students, and I hope that all of my students feel the same way.



During my time in Himi, I was able to learn so much about Japan, how to live alone, and how to find my place in a community. It was difficult adjusting at first, but I quickly found people who were kind enough to help me with learning about Japanese life and the language. I'll always remember all of the friends I made at the Japanese Language Class at the Ikiikigenkikan!

I'm also lucky to have had so many chances to travel around Japan. The beautiful mountains, the lush rice fields, the wide open sea, and even convenient trains were all new to me three years ago. Now, I can't imagine my life without them. My favorite place was the Izu Peninsula. Riding the sightseeing train along the coast, then driving to see giant waterfalls, quaint towns, and a giant spiral bridge was unforgettable.

Even with all the good and the bad, I could never give a big enough thank you to Himi for my time here. It has become like a second hometown for me, and I look forward to visiting again some day.

氷見の思い出

小学校で教え始めたときの緊張感は決して忘れられませんし、児童生徒たちとの別れがとても辛かったことも、決して忘れることはありません。氷見の子供たちはとても元気で楽しそうで、転びそうになるくらい笑わせてもらうことが何度もありました。私は児童生徒たちと作った思い出をこれから大切にしますし、児童生徒たち全員にも同じように感じてほしいと願っています。

氷見に滞在している間、私は日本のことや一人暮らしの仕方、コミュニティの中で自分の居場所を見付ける方法について、多くのことを学ぶことができました。最初は慣れるのが大変でしたが、日本の生活や日本語の学習を手伝ってくれる親切な人たちをすぐに見付けることができました。いきいき元気館の日本語教室でできた友達のことは、ずっと覚えています！

日本各地を旅行する機会がたくさんあったことも幸運です。美しい山も、緑豊かな田んぼも、広い海も、便利な電車も、3年前の私にとってはすべてが初めてでした。今では、それらなしの生活は考えられません。私の一番好きな場所は伊豆半島でした。海岸沿いの観光列車に乗ったこと、巨大な滝、趣のある町、巨大な螺旋橋を見に行ったドライブは忘れられません。

良いことも悪いこともすべて、ここで過ごした氷見には、どれだけ感謝してもしきれません。私にとってここは第二の故郷のようなもので、いつかまた訪れることを楽しみにしています。

Japan Memories

Borlen Chong

Hello everyone, I'm Borlen, an ALT who will be going back to America this year. I had a lot of fun in Himi and in Japan teaching everyone English this year.

I enjoyed living and enjoying the cuisine in Himi, especially the famous ramen shops and Himi udon. My favorite thing is to bike around beautiful Himi. Also, I really enjoyed traveling! This year, I went to 35 prefectures in Japan, and while it was tiring, I had a lot of fun traveling around Japan. I really like the Sapporo snow festival, the Joetsu cherry blossom festival, the Matsumoto castle illumination festival, and many other fun things around Japan!

I hope I can come back again someday and I hope everyone continues to study English!



日本の思い出

みなさん、こんにちは。私はALTのボーレンです。今年アメリカに戻ります。今年は氷見と日本で、みんなに英語を教えることができて、とても楽しかったです。

氷見での生活とグルメ、特に有名なラーメン店と氷見うどんを満喫しました。私の一番好きなことは、美しい氷見を自転車で巡ることです。あと、旅行もすごく楽しかったです！今年は、35都道府県に行き、疲れましたが、とても楽しかったです。札幌の雪まつり、上越の桜まつり、松本城のイルミネーションフェスティバル、その他、日本各地の楽しい催しが大好きです。

いつかまた戻ってくることができることを願っています。そして、みなさんが英語の勉強を続けてくれることを願っています。